

Road +o Million

一般社団法人 静岡青年会議所
2015～2024年度ロードマップ



「Road to Million」策定にあたり

一般社団法人 静岡青年会議所
2016年度 理事長 瀬口勇一郎

私たち静岡青年会議所は創立10周年という大きな節目の年を迎えるにあたり、2015年から2024年までの運動指針となる「First Vision」を策定し、創立10周年記念式典において、「先進100万人都市 輝く静岡」という世界を視野に入れた交流都市へ向けて歩み出すことを表明いたしました。

次に私たちがすべき事は、現在から未来を見据え、歩む道程を明確に描くことです。「First Vision」が画餅に帰さぬよう、必要となる多種多様な情報を集め分析し、戦略を立て、対内外に向け具体的な施策を打ち出し、実践していくことが必要となります。この青年会議所の単年度制という仕組みの中においても、如何に中長期的な道標を示し、継続していくことができるかが、とても重要となるのです。

本年度、ロードマップを策定し、これからの静岡青年会議所が歩む道程が明確になることにより、会員意識の統一と向上、このまちの更なる飛躍へ向けた運動へと繋がるものと確信しております。

～目次～

	ページ
<input type="checkbox"/> First Vision とは目的・戦略	4
<input type="checkbox"/> ロードマップとは戦術	5
<input type="checkbox"/> 何を目標として目的を達成するのか	6
<input type="checkbox"/> 静岡 J C が目指す国際化とは	8
<input type="checkbox"/> ロードマップフローチャート	10
<input type="checkbox"/> 青少年育成への取り組み	
・時代背景や子どもたち一人ひとりの環境を考えた青少年事業	12
・主体性を持てる青少年の育成運動	13
<input type="checkbox"/> まちづくりへの取り組み	
・地域コミュニティの再生に貢献する運動	14
・行政との連携強化	15
<input type="checkbox"/> 日本 JC、JCI の運動・活動への取り組み	
・日本 JC、JCI の運動へのコミット	16
・各種大会誘致への取り組み	17
<input type="checkbox"/> 会員や組織づくりへの取り組み	
・他団体やまちの人びとを巻き込んだ会員研修・交流	18
・特別会員も含めた歴史ある大きな組織	19
・女性の会員拡大および女性が活躍できる制度づくり	20
・事業の検証システムの構築	21
・アフター JC を楽しもう	22
・会員の拡大	23
<input type="checkbox"/> JC 運動・活動の発信についての取り組み	
・SNS などを利用した運動・活動の発信	24
・ブランディングの強化	25
<input type="checkbox"/> ロードマップの検証について	26
《資料編》	
<input type="checkbox"/> このまちの課題と問題点	28
<input type="checkbox"/> 静岡の国際化について	30
<input type="checkbox"/> 日本 JC、JCI における国際交流・国際貢献の機会	32
<input type="checkbox"/> 国際アカデミーを静岡へ	34

First Vision とは目的と戦略

10周年記念式典とは

2015年6月21日にグランシップで行われた、(一社)静岡青年会議所の創立10周年の記念式典のこと。式典では、(公社)日本青年会議所会頭や静岡県知事や静岡市長が出席され盛大に行われました。



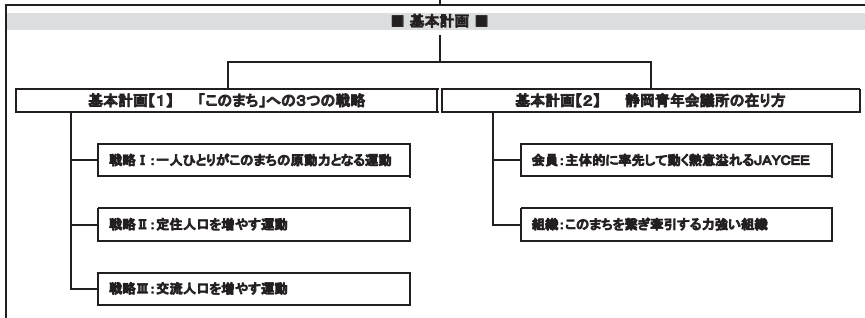
「First Vision」は2014年度に未来への懸け橋創造委員会の設営による「ビジョン創案会議」、「ビジョン策定会議」を経て2014年度の総会(12月)において可決されました。翌2015年度には、10周年記念式典において、ご来賓の皆様に向けて発表されました。

「First Vision」は基本構想(目的)『~未来を照らす創造性 誇りを胸に~「先進100万人都市 輝く静岡」の創造』と基本計画(戦略)『「このまち」への3つの戦略』と『静岡青年会議所の在り方』によって構成されています。

(一社)静岡青年会議所「First Vision」 2015年~2024年運動指針

■基本構想■
~未来を照らす独創性 誇りを胸に~
「先進100万人都市 輝く静岡」の創造

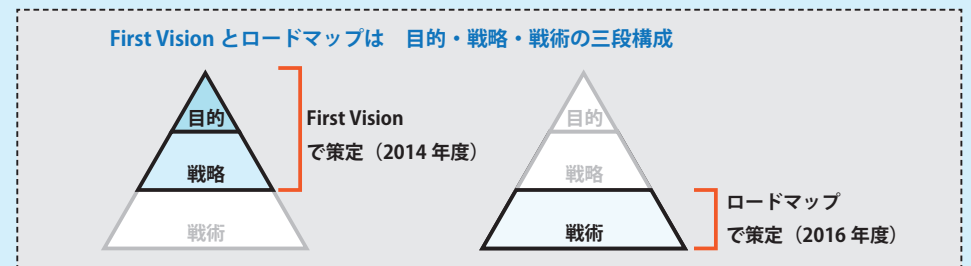
■基本計画■



ロードマップとは戦術

2016年度にはこの「First Vision」を実現するためのアクションプラン(戦術)が『未来を描くロードマップ創案委員会』を中心として策定されました。

これにより目的、戦略、戦術の3つがそろいました。



目的：(Object) 達成すべき使命のこと

未来を照らす独創性 誇りを胸に
「先進100万人都市 輝く静岡」の創造

戦略：(Strategy) 目的を達成するために資源を分配する「選択」のこと

(対外戦略)「このまち」への3つの戦略
 戦略Ⅰ：一人ひとりがこのまちの原動力となる運動
 戦略Ⅱ：定住人口を増やす運動
 戦略Ⅲ：交流人口を増やす運動
 (対内戦略) 静岡青年会議所の在り方
 会員：主体的に率先して動く熱意溢れる JAYCEE
 組織：このまちを繋ぎ牽引する力強い組織

戦術：(Tactic) 戦略を実行するためのより具体的なプラン

各アクションプラン

*目的と目標の違い
 目標：(Target) その目的を達成するために資源を投入する具体的な目的のこと
 (次ページに詳しく記載)

目的は 100万人都市
 目標は 静岡の国際化

ターゲット(目標)になり得るもの

我々がこのまちに運動を展開していく中で、何をターゲット(目標)にするのかは非常に重要です。例えば、目標を《出生率》(出生率や人口流出の詳細は P26.27 参照)とし、出生率を上げて、100万人都市を目指すことも考えられます。この場合、現実的でない値に出生率を上げなくては2024年に100万人は到達しません。また、目標を《人口流出》とし、特に若い女性の流出を抑えて、100万人を目指すことも考えられますが、仮に流出を0としても、10年で目的の100万人都市は現実的に不可能です。

このように、いくつかの目標は考えられます。その中から《国際化》に焦点を当てることで目標を達成できるのではないのでしょうか。下記データは交流人口と定住人口の関係を経済的な側面から現したものです。静岡 JC が国際化を推進する理由については次頁をご覧ください。

出生率に関するポイント

○静岡市の合計特殊出生率は、1980年代には約1.7だったが、2000年代には約1.3まで低下し、その後1.4まで回復しています。

○夫婦が持つ子どもの数については、理想の数は「3人」が多いものの、実際の子どもの数は「2人」「1人」が多くなっています。

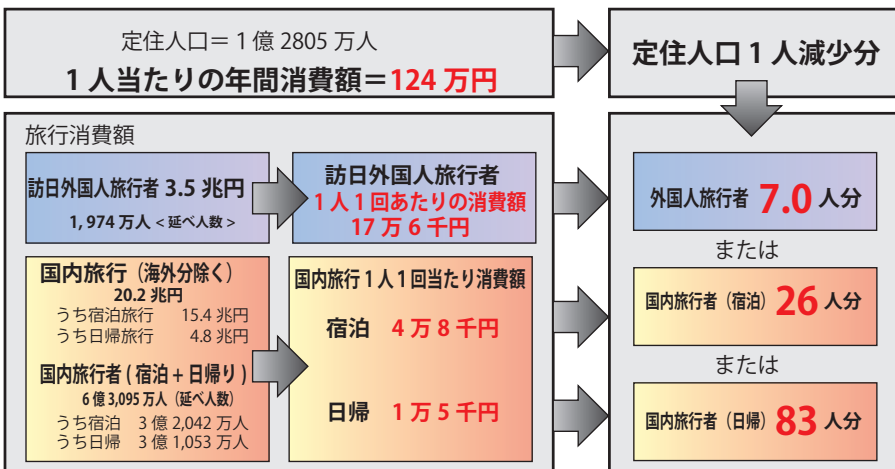
○出産適齢期の女性が大幅に減少している上に、静岡市では、若年女性の首都圏等へ流出も加わり、今後も出生数の減少が見込まれます。

観光交流人口増大の経済効果

日本人定住人口の一人当たりの年間消費額は約124万円

旅行者の消費に換算すると

外国人旅行者7人分、国内旅行者(宿泊)26人分、国内旅行者(日帰り)83人分にあたる



出典：志友会での講演資料を基に未来を描くロードマップ創案委員会で作成

静岡の国際化を推進しよう

第3次静岡市総合計画(詳しくはP28.29参照)の重点テーマとして歴史、文化、中核、健康、防災、共生、をあげている。これらの中で3つのテーマ(歴史、中核、共生)で国際化は関連が深く、静岡市の掲げる「世界に輝く静岡」の実現に大きく関わる。

歴史…世界に発信し、世界から人が集まる

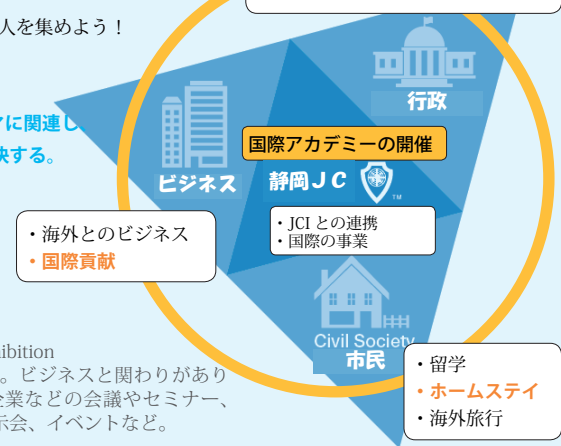
中核…独自の産業と*MICEで世界から人を集めよう!

共生…異文化コミュニケーション

- ・国際化を推進することは多くのテーマに関連し、国際化の推進は、多くの諸問題を解決する。
- ・市民・行政・ビジネスにおいて国際化の機会はたくさんある。

「JCが国際交流・国際貢献をすることで、行政や市民、企業がやっている国際化を取りこみ、静岡の国際化を促進させる事ができる。国際アカデミーの開催は行政・企業・市民の国際化への取り組みに推進力をもたらすことで、静岡市の人口増加に貢献

- ・MICEの開催
- ・松原を世界に発信して人を集める
- ・異文化コミュニケーション



*MICEとは

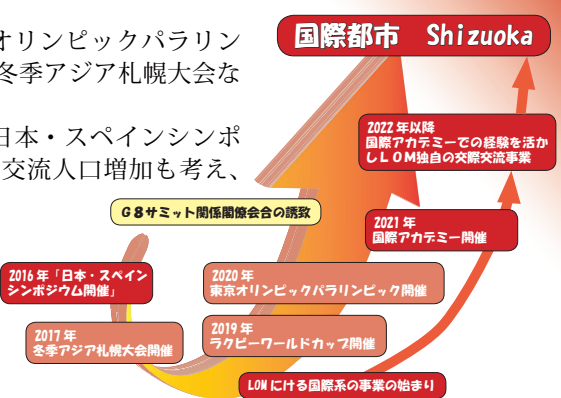
Meeting、Incentive、Conference、Exhibitionの4つの頭文字を合わせた言葉である。ビジネスと関わりがあり多数の人の移動を伴う行事をいう、企業などの会議やセミナー、研修旅行、国際会議や総会、学会、展示会、イベントなど。

静岡の国際化に向けた動き

日本では、2020年の東京オリンピックパラリンピックを軸にラクビーW杯や冬季アジア札幌大会などの国際イベントが続きます。

静岡市でも、2016年に「日本・スペインシンポジウム」が開催され、今後は交流人口増加も考え、MICE開催を目論んでいます。

JCは国際組織であり、国際交流・国際貢献の多くの有益なプログラムを持つ組織です。静岡JCはこの組織の一員として、静岡の国際化に大きな役割を果たすことができます。



LOMにける国際系の事業の始まり

①まちづくりや青少年事業などを国際化と連携させよう

各地青年会議所における国際関連の事業とは

各地の青年会議所では、さまざまな青少年事業や国際系の事業を実施しています。その中には、2つをあわせて国際色のある青少年事業を実施している LOM もあります。その中でも、福山 JC の「アジア青少年国際交流事業」や成田 JC の「NARITA 少年の翼」などは成功例として広く各地の LOM にも知られています。



△アジア青少年国際交流事業



△NARITA 少年の翼

まちづくりや青少年事業の他に国際交流・貢献に関する事業を行っている青年会議所が多く存在します。静岡青年会議所が毎年実施しているまちづくり事業、青少年事業、会員育成・研修事業についても、静岡の国際化にどのように寄与するのかという観点から事業を組み立てていく必要があります。

各地青年会議所における国際関連の事業例

第 1 回アジア青少年国際交流事業 in 福山

【概要】

海外の子どもたち参加者 22 名・引率者計 10 名（子ども：マレーシア 5 名・インドネシア 4 名・台湾 4 名・モンゴル 4 名・カンボジア 5 名、引率者：10 名）を福山に招き、約 5 日間、市民と寝食を共にしながら、プログラムを受け、純真で国籍や宗教や文化の垣根が比較的低い子どもたちに、それらを乗り越える体験を共有させることで、同じ人間として多様性を認め合うことが出来る青年を増やすことにより、世界の平和を育む事を目的としています。

「NARITA 少年の翼」

【概要】

「NARITA 少年の翼」は、成田市と国際友好都市とを繋ぐ民間使節団として 1985 年にスタートしました。国内での事前研修や海外研修を通じて仲間との絆が深まり、多くの感動と学びを得ることができ、これまでに 1,000 名を超える少年少女が参加しています。

「OMOIYARI の志」伝播事業 「スマイルプロジェクト 2013」

～ We create 私たちの未来は私たちが創る！～

【概要】

国連ミレニアム開発目標 (MDGs) にある「極度の飢餓と貧困の撲滅」を目指し、これから地域として次世代へ運動を広げていくために霧島市在住もしくは在学の中高生を募り、新しいボランティア団体を発足させました。その中高生達が世界の現状を知り、今自分達は何ができるのか、未来に対して何ができるのかを自分達だけで考え行動することで、国際協力を通して「OMOIYARI の志」を学び、それをまた伝播していく事を目的としています。

②日本 JC, JCI の機会を生かす (国際アカデミー)

日本 JC, JCI には様々な国際交流や国際貢献の機会があります。これらの機会を生かし、静岡の国際化に寄与しましょう。

国際アカデミー（詳細は P33.34.35 参照）では、国内外のデリゲイツが集まり研修をします。地元開催となれば、日本 JC の担当委員会と連携し、設営をすることになります。多くのメンバーが国際の機会を得ることができます。また、次年度の各国会頭予定者の方々々に直に静岡のまちを体感していただく機会となるため、静岡を世界に発信するには最善の機会といえます。

海外デリゲイツとは

国際アカデミーに参加する外国人の参加者の事。大多数の人が、次年度のその国の会頭候補者です。

国内デリゲイツとは

国際アカデミーに参加する国内参加者の事です。地元 LOM での役職は、一般会員から理事構成メンバーまで様々です。原則として各 LOM 1 名として、幅広く参加を募っています。

表 1 国際アカデミー開催における静岡 JC、行政、まちへの関わり方やメリット

静岡 JC へのメリット	<ul style="list-style-type: none"> 国際アカデミーを経験したメンバーが残り、国際色のある新たな事業を立ち上げることができる。 準備期間こそ LOM メンバーの地力とやる気を上げる絶好の機会。 地元市民や行政、企業の青年会議所運動への理解促進 大きなコンベンションやセミナーを行うことで行政や地元企業の JC に対する見方が変わる。 ボランティアなど関わってくれたまちの人たちが JCI に興味を持ち入会に至る場合もある。
静岡 JC の懸念材料	<ul style="list-style-type: none"> 限られた費用での会場、宿泊先などの確保 通訳ボランティアやホームステイの受け入れ先 (ホストファミリー) の確保
静岡市 (行政) との関わり	<ul style="list-style-type: none"> 助成金 通訳ボランティア、ホストファミリーの募集 モジュールで行うプログラムでは地元をテーマにすることも可能なため行政の持つ調査や基本情報の共有 学校訪問先の教職員はプログラムに関する連携
静岡市 (行政) のメリット	<ul style="list-style-type: none"> 地元のプログラムでは、海外のひとに直にまちをアピールして反応を見ることができる。地元の強みを再認識することができる。 通訳ボランティアなどを募るにあたり、役所内でも英語やその他の言語を喋れる職員を把握できる。 オープンモジュールに行政の方にも参加者してもらうことで、JCI メンバーでまちの問題点を議論すれば参加した市民にとって非常に刺激になる。 学校訪問のプログラムに学校一丸となって取り組むことで一体感が生まれる。生徒と共に準備をする中で、地元静岡の良さ、日本文化の奥深さを再認識したり、普段自分たちが気付かない自国の良さに気付くことができる。
市民の関わり	<ul style="list-style-type: none"> のべ数千人 通訳ボランティア、ホストファミリー、オープンモジュールへの参加、訪問先小学校の生徒など
市民のメリット	<ul style="list-style-type: none"> これまでの実績から、学校訪問を受けた生徒がまだ外国語が話せないのに積極的に海外の方と話そうとする「姿勢」が見られる。参加後に「海外へ行ってみたい」「外国語が話せるようになりたい」と言うようになったなど、大変貴重な経験となる。 オープンモジュールに市民にも参加してもらうことで、JCI や地元 JCI についての理解を深めてもらえる上に、参加した市民にとっては国際意識を培うのに非常に有意義である。 ホストファミリーからは、海外デリゲイツに日本の魅力を教えてもらうことも多く、特に子どもが大きな影響を受けることが多い。 海外デリゲイツと触れ合う中で生徒に普段は関心を持つことの少ない海外に目を向けるかけがえのない機会となる。 ホームステイを通しての国際感覚の醸成ができる。 国際アカデミーの参加を通して地域活動に関わろうという市民の気持ちが醸成される。
まちとの関わり	<ul style="list-style-type: none"> 会場の提供 地元の各種組合、PTA 連合会、大学などによる後援 (過去の実績 24 団体程度) 地元企業を中心とした協賛 (過去の実績 16 社程度)
まち (開催地) へのメリット	<ul style="list-style-type: none"> 海外デリゲイツ、国内デリゲイツその他 JC 関係者を含め 300 名以上が来ることによる経済効果 行政単独では開催しづらい大きなコンベンションが開催できる。

2015

2016

2017

2018

2019

2020

2021

2022

2023

2024

2025

FirstVision 策定

ロードマップ策定

国際化に向けた基盤づくり

国際化で得た力を発揮した運動

国際アカデミー開催

「先進100万人都市輝く静岡」

基本計画【I】「このまち」への3つの戦略

基本計画【II】静岡青年会議所の在り方

戦略Ⅰ

一人ひとりがこのまちの原動力となる運動

戦略Ⅱ

定住人口を増やす運動

戦略Ⅲ

交流人口を増やす運動

会員

主体的に率先して動く熱意溢れる JAYCEE

組織

このまちを繋ぎ牽引する力強い組織

青少年育成

時代背景や子ども達一人ひとりの環境を考えた青少年事業

主体性の持てる青少年の育成運動

地域全体での育成

多様性を認め合う育成

海外の子どもとの交流体験

まちづくり

地域コミュニティ再生に貢献する運動

行政との連携強化

地域の魅力を洗い出す

行政とJCが互いに望むこと的一致

JCI、日本JCの運動活動への取り組み

JCI、日本JCの運動へのコミット

各種大会誘致への取り組み

国際プログラムの習得

戦略的出向

全国とのネットワーク構築

会員や組織づくりへの取り組み

女性の会員拡大および女性が活躍できる制度づくり

会員の拡大

女性が魅力を発揮できる環境

各人が役割を担い責任感の芽生える組織

他団体やまちのひとびとを巻き込んだ会員研修・交流

事業の検証システムの構築

他団体と双方の講師派遣

国際化への貢献を検証

特別会員も含めた歴史ある大きな組織

アフター JC を楽しもう

シニアとの交流

同好会の積極的な活用

JC 運動・活動に対する発信の取り組み

SNS などを利用した運動・活動の発信

ブランディングの強化

多角的な広報活動

国際ネットワークを活用したブランディング

戦略Ⅰ：一人ひとりがこのまちの原動力となる運動

- ・市民が自ら発信したくなる郷土愛
- ・青少年が中心となって展開する事業
- ・行政や他団体とのタイアップ事業

戦略Ⅱ：定住人口を増やす運動

- ・国際化による新たな仕事の創出
- ・地域の価値向上で住みたいまちへ
- ・安心して住める地域ネットワーク

戦略Ⅲ：交流人口を増やす運動

- ・静岡の魅力を海外へ積極的に発信
- ・自信に満ちた観光客へのおもてなし
- ・インバウンドに対応した産業の循環

会員：主体的に率先して動く熱意溢れる JAYCEE

- ・市民の先頭に立つ JAYCEE の育成
- ・国際的に活躍する JAYCEE の育成
- ・当事者意識の高い JAYCEE の育成

組織：このまちを繋ぎ牽引する力強い運動

- ・各種大会を開催できる組織力
- ・若手と経験者が融合した強靱な組織
- ・市民に認知され親しまれる組織

青少年育成とは

未来のこのまちの担い手となる子ども達の育成に取り組み、子ども達が必要な力を育むことができるように、様々な事業の企画・運営をしています。例えば、職業体験やキャンプ等です。LOMメンバーも、青少年育成事業を通じて多くの子ども達と触れあい、親として成長します。

△2016年度



△2013年度



時代背景や子どもたち一人ひとりの環境を考えた青少年事業

核家族化が進み、地域のネットワークが希薄化している中で、このまちの子ども達に対して、青少年事業を通じて一過性の取組みではない継続的な関わり合いが求められています。地域に密着している団体の強みを活かし、かつて地元有志が積極的に活動していた「子ども会」の取組みに代表されるような、子ども一人ひとりの顔が見え、頼り頼られる信頼関係が芽生えることが重要です。それは、子ども達を地域全体で育成していく環境を再構築することにもつながります。

そして地域の子供達は、このまちだけでなく今後の国際化社会を担う存在でもあります。国際組織である青年会議所は、海外の子供もや静岡在住の外国人との交流といった貴重な体験を通じて、子ども達が早い段階から国際感覚を身につけられる取り組みを展開する必要があります。



2006	「夢と心」をテーマに独自の学校を創造し、「夢」の手助け。	
2007	田畑耕作	親子での富士登山
2008	職業体験学習	駿河風を通じて郷土学習
2009	2泊3日の静岡徒歩	
2010	神津島キャンプ	職業体験学習
2011	被災した子ども達との交流	職業体験学習
2012	自衛隊入隊訓練	職業体験学習
2013	屋久島キャンプ	産業技術を伝える
2014	西伊豆キャンプ	プロジェクトアドベンチャー
2015	キッズCMコンクール	子ども達が描く未来予想図

主体性を育てる青少年の育成運動

このまちの交流人口を増やしていくにあたって、青少年育成に関しても国際交流は非常に重要なファクターとなります。純真で先入観の少ない子どもたちに、互いに異なる国籍や宗教や文化に触れ合う体験を共有することで、同じ人間として多様性を認め合うことが出来る青少年の育成につなげていくことができるはずです。

青年会議所活動は単年度制をとっているため、事業に継続性がない傾向にあります。だからこそ、過去の参加者の意見を取り入れ、既存の事業をブラッシュアップしていくことにより、より良い事業を展開していく必要性があるのではないのでしょうか。それが事業に継続性を与えLOMの強み・ブランディングへとつながっていくのです。このような仕組みを確立できれば、青年会議所への愛着や、Uターンで地元へ帰ってくる若者の増加につながります。

アジア少年少女国際交流事業とは

福山JCが運営する国際交流事業。国際アカデミー開催後に開始された事業です。

LOMとは

Local Organization Memberの頭文字をとったもので、日本青年会議所の中に属する各地青年会議所のことです。



地域コミュニティの再生に貢献する運動

まちづくりとは

静岡青年会議所のおける近年のまちづくりは以下の通り

- 2013 年度
 - ・静岡 J C が描くこのまちの未来
 - ・未来の静岡創世委員会事業～壮大なる中期ビジョン創案へのプロローグ～
 - ・静岡を感じる月間～静岡市民の心ひとつに～
 - ・第 6 6 回清水みなと祭り港かつぱれ総おどりの参加
 - ・第 5 7 回静岡まつり駿府紅蓮の大炎上事業
 - ・シズオカ×カンヌウィーク 2 0 1 3 ～静岡の未来は我が切り拓く～
- 2014 年度
 - ・第 5 8 回静岡まつり駿府紅蓮の大炎上
 - ・シズオカ×カンヌウィーク 2 0 1 4 ～我々が新しい静岡を魅せる～
 - ・安全なまち構築委員会セミナー～このまちを守るためにできること～
 - ・「1 1 (いい) ね!」静岡 2 0 1 4 ～人と人が支え合ってまちがひとつの家族に～
 - ・2 0 1 4 年度 安全なまち構築訓練～明日動けるようになるために～
 - ・9 月度第 2 例会 ～このまちを守る防災ネットワークの創造～

人口減少や少子高齢化が進み消滅可能性が危惧される地域が無数に存在する中、静岡市も同じ問題を抱えています。また多種多様で利便性の整った環境により、人と人とのつながりが薄れて、地域コミュニティの崩壊が進んでいます。

静岡青年会議所が First Vision で掲げた「定住人口を増やす運動」「交流人口を増やす運動」を展開する中で、誰もが住みやすいまちをつくること、また地域の魅力を洗い出し、付加価値を高めて発信することが重要です。国際化に軸を置いた運動はもちろん、JC にしかできない、JC だからこそできるまちづくりを実践していきます。



△あさはた沼フェスタ (2016)



△静岡を感じる月間～静岡市民の心ひとつに～ (2013)

行政との連携強化

まちづくり団体である私たちは、毎年複数の事業や活動を実践しています。しかしながら、そのいくつかは単発の行事として完結してしまい、独自の活動で終わってしまうこともありました。地域により深く根ざした運動を展開するにあたり、行政との連携を強化し、国際化に向かって継続性のある運動を実践する必要があります。

静岡市の第 3 次総合計画では、観光産業の強化・海外からのインバウンド消費をターゲットとした国際化を重要なテーマとしています。行政との連携を強化すべく、国際化に軸を置く静岡青年会議所は「JC にしかできないこと」を今一度考え、「行政が JC に望むこと」、「JC が行政に望むこと」を一致させることが必要不可欠です。

13のストラテジー

未来を形作るための戦略

1 観光しやすいまち	2 訪れた人に愛しまち	3 魅力的な地域食材に溢れたまち	4 清潔できれいまち
5 エコロジーなまち	6 交通手段が充実したまち	7 アジアの言語が通じたまち	8 子育てしやすいまち
9 健康でスポーツが活発なまち	10 おしゃれなまち	11 自然を楽しみ共生できるまち	12 安心・安全なまち
13 美しい景観を有するまち			

今、私たち青年が考える「まちづくり」。……いろんなアイデアがありました。

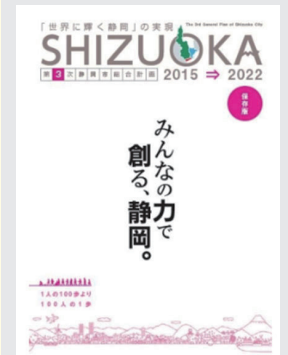
△壮大なる中期ビジョン創案へのプロローグ (2013)

行政とのパイプづくり

定期的なまちづくりに関する意見交換等の場を設けること。JC と行政のベクトルの向きを合わせるためのもの。

第 3 次総合計画

静岡市の活動指針。「都市の発展」、「暮らしの充実」を観点に、2015 年から 2022 年までの 8 年間で取り組む重点プロジェクトを記したものの。



日本 JC、JCI の運動へのコミット

日本青年会議所（日本 JC）とは

明るい豊かな社会の実現を目的とする日本各地の青年会議所（2016年現在 697ヶ所）を会員として組織した公益社団法人である。国際青年会議所に加盟。

JCI とは

JCI（Junior Chamber International: 国際青年会議所）は、1915年にアメリカ・ミズーリ州セントルイスに誕生し、現在では世界 110ヶ国、会員数 17万人の世界で最も大きな青年団体。

日本 JC、JCI の大会とは

京都会議、サマーコンファレンス、全国会員大会、地区会員大会、ブロック会員大会等。JCI の大会は ASPAC や世界会議等。

出向者とは

各地青年会議所より国際青年会議所・日本青年会議所・地区協議会・ブロック協議会へ役員や委員として出向していく会員のこと。

戦略的出向とは

静岡 JC の中長期計画である First Vision を実現するために、LOM に経験や情報を持ち帰り、また日本 JC 内での静岡 JC への信頼を高め、大会招致を勝ち取るための計画的な出向。



△ JCI JAPAN 少年少女国連大使（2016）

日本 JC、JCI は、日本全国、世界各地の志を同じくする青年経済人が集まり、時流をとらえた各種運動を展開しています。さらに様々なプログラムやチャンス、出会いが存在します。変化のスピードが速く、グローバル化が著しい今日、日本 JC、JCI の掲げる方向性に沿った運動、特に国際色のある事業を静岡でも実施していくことは大切です。

また日本 JC、JCI の大会に積極的に参加することや、国際グループの委員会に毎年多数の出向者を計画的に輩出することで、1つの LOM だけでは経験することができない多くの学びを得ることができます。これが更なる人材の成長や人的ネットワークの構築につながり、そこで得られた情報をもとに、静岡青年会議所や、わがまち静岡を、一層国際色溢れるまちへと引き上げていくことができます。

各種大会誘致への取り組み

「先進 100 万人都市」を実現する上でインバウンドを取り込むことは非常に重要です。そのためにも国際化に向けた事業の誘致は静岡青年会議所の取り組むべき課題のひとつと言えます。それには日本 JC への計画的な出向が大変重要となります。私たちメンバーには出向の機会が多くあり、そのチャンスは平等に与えられています。出向は LOM では体験できない経験や価値観を得ることができると同時に、全国各地にメンバー同士の「つながり」を築くことができます。この「つながり」は各種大会や事業誘致にとって大きなプラスとなるはずです。

また、各種事業、大会を誘致・開催することは、行政と諸団体、そして市民との協働体制の構築が不可欠であり、この活動自体が「まちづくり」の一端を担います。

	国際アカデミー	ASPAC	世界大会
行政との関わり	<ul style="list-style-type: none"> 助成金 通訳ボランティア、ホストファミリーの募集 	<ul style="list-style-type: none"> 地元警察による交通整理等の協力 広報・インフォメーションの協力、後援 	
市民の関わり	<ul style="list-style-type: none"> のべ数千人。通訳ボランティア、ホストファミリー、オープンモジュールへの参加、訪問先小学校の生徒など 	<ul style="list-style-type: none"> 開催するプログラムによるが限定的 	
まちとの関わり	<ul style="list-style-type: none"> 会場の提供 地元の各種組合、PTA 連合会、大学などによる後援（24 団体） 地元企業を中心とした協賛（16 社） 	<ul style="list-style-type: none"> 会場の提供 協賛 各種団体などによる後援、広報計画への協力 	

インバウンドとは

外国人が訪れてくる旅行のこと。日本へのインバウンドを訪日外国人旅行または訪日旅行という。これに対し、自国から外国へ出かける旅行をアウトバウンド（Outbound）または海外旅行という。

各種大会とは

ASPAC…Asia Pacific Area Conference の略。アジア太平洋エリア会議。



△ ASPAC Japan ナイトへのブース出展（2016）



△国際アカデミー in 水戸 2016

会員研修とは

このまちの明るい未来を見据え青年会議所運動・活動に邁進する会員の一人ひとりが世界へ輝けるまちへ導けるリーダーにならなければなりません。現状を知り、今何が求められ、今後何が必要とされるのか読み解き、人びとを導く重要性を学びます。

会員交流とは

会員同士が一つの大きなネットワークでつながり、育まれる絆によって、より強固な人間関係が構築できます。役職や委員会という枠組みにとらわれない人間関係を築くため、情報発信や懇親会の機会を活用し、活発な交流をしています。

公開例会、公開事業とは

例会や事業に市民の皆さまに来ていただくことがあります。公開例会、公開事業により、市民の皆さまに宛てた情報発信をしています。また、例会や事業を公開することで市民の皆さまが青年会議所を知り理解していただく機会にもなります。

他団体やまちの人びとを巻き込んだ会員研修・交流

国際化を推進する我々にとって、これからの会員研修・交流には、国内外の他団体や地域の人々を巻き込んだ研修・交流が必要です。例えば、他団体と双方で講師を派遣しあう機会や、国際会議のセミナーや分科会への参加、海外のJCと合同の研修など様々なことが考えられます。

また、静岡青年会議所の例会・事業については、積極的に公開とすることで、静岡青年会議所が行う運動を地域に発信するとともに、地域の人たちに学びの場を提供することができます。

他団体や地域の人々と合同で研修・交流を実施することは、我々が単独で実施するよりも緊張感があり、これまでにない議論や新たな学びが得られることが期待されます。

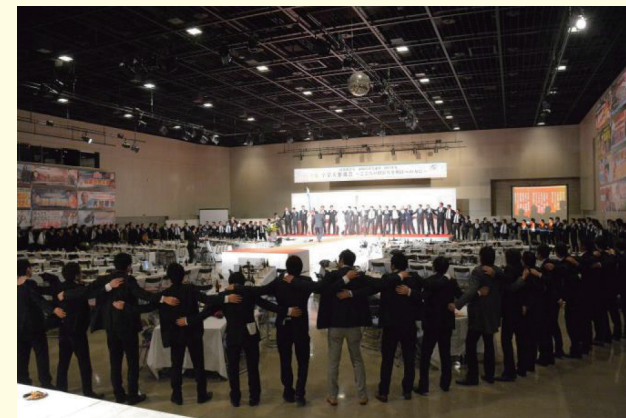


△アクティブシティズン・フレームワーク

特別会員も含めた歴史ある大きな組織

静岡青年会議所には新設前の旧 3LOM（静岡・駿河・清水）の時から、多くの先輩達が作り上げてきた長い歴史があります。新設後も多くのメンバーが特別メンバーとしてわれわれの運動・活動を見守ってくれています。しかし現在は現役会員と特別会員とのつながりの希薄化が懸念されており、それは先輩方が築き上げた伝統ある静岡青年会議所の運動・活動の想いを継承する機会が少なくなることを意味しています。特に、今後大きな大会やプログラムを開催するには、特別会員の方々のサポートが必要となります。

特別会員の方々と協働してまちづくりの運動を展開することで、我々は先輩方への感謝とこのまちへの想いを受け継ぐことができます。次代へ伝える使命感を継続しても持ち続け、自己の成長を続けることで、我々のまちづくり運動は加速していきます。



△卒業大懇親会（2015）

特別会員とは

静岡青年会議所を卒業された経験豊富な OB・OG。

JC 魂とは

基本理念にある明るい豊かな社会を実現するために活動する青年会議所。そこに集う人が本音で話し合い、お互いを信頼し、本気で活動に取り組む活動。行動綱領としての「トレーニング、サービス、フレンドシップ」の JC 三信条を基軸に、率先して行動すること。



△卒業例会（2015）



△卒業大懇親会
新入会員の出しもの（2015）

女性の会員拡大および女性が活躍できる制度づくり

産休、育休制度とは

働く女性が出産前と出産後に取得できる全ての女性労働者が対象の休業期間のこと。

全国JCなでしこ女子部会

青年会議所の特性と強みを活かしながら、女性の力を伸ばしていく運動とソリューション、品格ある女性経済人の育成に注力している。その効果や課題は、本会へもフィードバックし、トライ&エラーができる有機的な組織づくりを目指しています。

世界を見渡すと、一人ひとりの女性のライフステージに応じて女性が魅力を持ち活動できる環境が整えられています。青年会議所も同様に女性が活躍する場が増え会員数も増加傾向にあります。

我々の静岡青年会議所では、女性会員も増えてはいるものの、未だ男女の比率の差は大きく今後のまちづくり運動を推し進めるためには、女性会員の拡大、活躍できる制度づくりをしていくことが求められます。

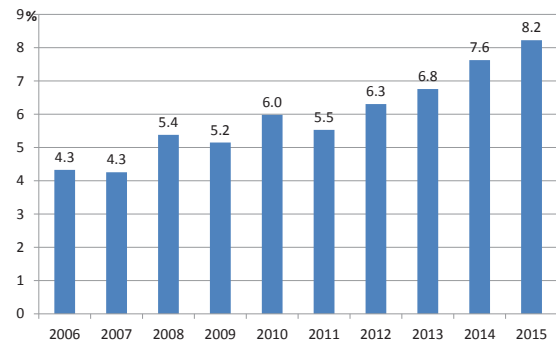
しかし、今の女性は子育てで自分の時間がない、仕事と家庭の両立が精一杯であり、静岡青年会議所や他団体での活躍が難しい現状があります。そこで、我々の青年会議所でも、女性会員を支援し、活躍しやすい環境へとインフラを整えることで、我々の活動も世論を取り入れた充実したものへと進化させていくことが可能です。

静岡 JC メンバーの年齢構成と女性の割合

年齢	期首会員	(女性)	新入会員	(女性)
39	46	4		
38	32	1	6	
37	25	1	6	2
36	29	5	2	
35	21	1	3	
34	19	1	4	
33	12	1	5	
32	16	2	3	
31	6	1	1	
30	9		3	
29	7	1	4	1
28	5		2	1
27	0		1	1
26	1	1		
25	0			
24	1	1	1	
23			1	
人数	229	20	42	5
平均年齢	35.44541		33.11905	



静岡青年会議所における女性会員の割合



静岡 JC の新入会員数と男女比

年	男性	女性	入会人数	男性比率	女性比率
2005年	27	4	31	87%	13%
2006年	36	0	36	100%	0%
2007年	40	3	43	93%	7%
2008年	52	6	58	90%	10%
2009年	41	3	44	93%	7%
2010年	34	3	37	92%	8%
2011年	43	4	47	91%	9%
2012年	45	6	51	88%	12%
2013年	56	9	65	86%	14%
2014年	46	5	51	90%	10%
2015年	55	8	63	87%	13%

事業の検証システムの構築

青年会議所は単年度制であるため、多くのメンバーは限られた予算・時間・人員の中で初めての事業を企画・実施します。したがって任された事業に対して会議で検討を重ね、実施後には詳細な検証を行い、次年度に引き継がなくてはなりません。そのようなサイクルを重ねることで事業の質が向上し、運動がより実効性を持つことができます。検証については、構成や設えの評価以外に例会・事業がどのように静岡の国際化に寄与したのかを検証することも大切です。

また、外部の評価という点においては日本 JC の褒章事業に申請し、AWARD 獲得に挑戦することは非常に意味のあることです。AWARD 獲得を目指して我々が展開する運動を全国、全世界の JC メンバーに向けて伝播することは、より力強い JC 運動を展開し静岡市を国際都市へと飛躍させていくうえで重要です。



静岡 JC の過去の AWARD 申請事業

- ・2013年 地方自治部門
11月度第一例会～静岡JCが描くこのまちの未来～
- ・2013年 地域開発部門
「しずおか未来学園2013」～静岡すんげえ～新聞社～
- ・2013年 地域開発部門
「しずおか未来学園2013」～つながり続いていく、ほくらの道～
- ・2013年 ビジネス開発部門
静岡を感じる月間～静岡市民の心ひとつに～
- ・2014年 人材育成部門
6月度第一例会「利他・人間尊重の生き方」～戦後復興を支えた先人たちの熱き心に学ぶ～
- ・2014年 WEB・広報活動部門
安全なまち構築訓練～明日動けるようになるために～
- ・2015年 青少年育成部門
10周年記念事業「しずおか未来学園2015～しずおか大好き♡キッズCMコンクール～」
- ・2015年 地域環境活性化部門
「10周年記念まちづくり事業」静岡礼賛～心に宿せ！このまちの誇り～

褒章 (AWARD) とは

青年会議所活動を通じて地域に貢献した会員会議所を称え、その栄誉を全国に発信し、各地青年会議所がこれらの事業を参考に新たな気づきや学びを得る機会とすることを目的としています。



△アワードポスター (2013)

日本 JC への褒章申請とは

各地青年会議所より申請され、優秀な事業等に贈られる褒賞のことで、毎年、全国会員大会においてアワードセレモニーが開会される。しずおか未来学園2015～しずおか大好き♡キッズCMコンクールがブロック優秀賞を受賞しました。



アフター JC を楽しもう

アフター JC とは

JC 行事以外でメンバー同士が交流を行う場。同好会、クラブ活動、懇親会、またはメンバー個々での集まりの場など。

近年、組織を構成する会員の年齢層に変化がみられます。入会から卒業までの期間が 10 年以上もあるような会員は激減し、会員の平均的な在籍期間が短くなっています。これにより限られたメンバーのみの交流だけで卒業を迎えてしまう会員が増えています。

静岡青年会議所は国内でも会員数の多い有数の LOM であり、他の LOM と比較してもより多くの会員と交流を深める場が存在するにも関わらず、在籍年数が短いことからつながりを持つことのできるメンバーが限られてしまう現状は残念です。

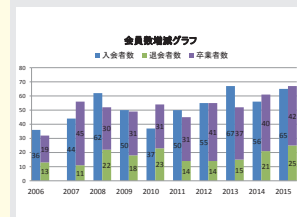
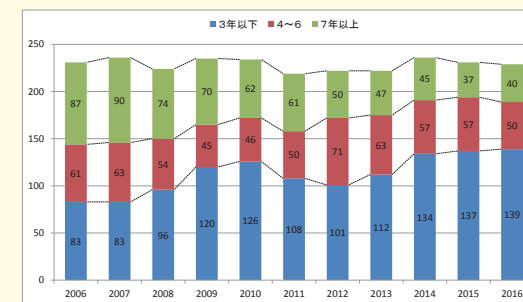
今後はこうした現状を今一度見直し、同好会・クラブ活動への入会の促進や、JC 活動以外でメンバーが集まる場を提供する等、アフター JC への注力が望まれます。これにより、今まで以上に委員会を越えて、より多くの会員と交流し絆を深めることが、個人の財産となり、ひいては組織力の向上にも繋がります。



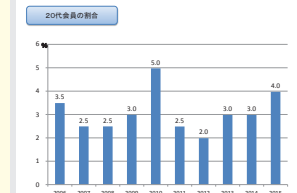
会員の拡大

明るい豊かな社会の実現のために志を同じくする仲間をより増やしより運動・活動を活性化させることも重要です。しかしながら、地域社会の混沌とともに、会員数の増加に伸び悩みを感じています。また、同様に会員数の問題だけでなく、会員の在籍年数が短くなる傾向にあり、いわゆるベテラン会員の現状等から組織は厳しい状況にあるといえます。その一方で、これまで会員拡大活動に取り組んできたことによって、我々静岡青年会議所は、会員数の減少を食い止めるといえます。今後、静岡青年会議所がよりよい組織となっていく為には、若年層の同志の輪をより大きく広げ、会員の拡大をこれまで以上に推し進めていくことが必要です。さらには、会員一人ひとりが、JC だからこそできる体験・経験をしていくことが何よりも大切です。会員一人ひとりが委員会・LOM・出向先で様々な役割を担うことで、自然に責任感や楽しさを感じることができ、日常では持ち得ない広い視野を身につけることが出来ます。個人からまちへ、まちから日本へ、日本から世界へと国際組織ならではの経験を得ることができます。メンバー一人がひとりが様々な知見を得ることができます。在籍年数の長期化を進めることで、会員にはより多くの経験ができるチャンスが得られ、ひいては会員の資質向上、理事の資質向上へとつながり、より強固な組織体制へと繋がります。

静岡青年会議所における在籍年数構成表



△会員数増減グラフ



△20代委員の割合



△女性委員の割合

SNS などを利用した運動・活動の発信

SNS とは

Social Networking Service の略で、コミュニティ型のネットサービスです。静岡青年会議所は、ホームページ、フェイスブック、ツイッターにより随時情報発信をしています。また委員会内についての情報共有についてはライン等を用いて情報共有をしています。



△ facebook ページ



△ twitter ページ

静岡青年会議所運動を市民に向けて積極的に発信していくことは重要な課題です。情報化社会の現在では、ホームページ、フェイスブック、ツイッター、ライン等、さまざまなツールが存在します。静岡青年会議所の運動は、いくつもの事業等が同時進行していくことから、リアルタイムに情報を発信できる仕組みを構築していかなければなりません。

また、発信のツール以上に、発信する内容がより重要になります。発信する情報は青年会議所について全く知らない方にとっても理解できる内容でなければなりません。メンバーを取材して紹介することも、このまちの人びとや新入会員に静岡青年会議所をより理解してもらうには有効です。

さらには、今後のより一層の国際化、国際アカデミーの開催等を見据えて、国際的にも静岡青年会議所の活動を発信していく仕組みを検討しなくてはなりません。



ブランディングの強化

静岡青年会議所はまちづくり運動を国内外に発信して、自らをブランディングしなくてはなりません。我々が行う事業について、プレスリリースや記者会見を行うことも有効な手段です。また、国際化を推進するにあたり、2013年度に仁川青年会議所と姉妹締結を結び築き上げてきた友好関係をブランディングの良い機会とすることも重要です。

歴史を振り返ると、1997年度には旧清水JC—仁川JCの友好30周年記念事業として「石像里帰り大作戦」を実現して地元市民に歓迎され、青年会議所のブランディングとしても大きな成果を上げました。

このように、国際化の機会を重ね、この機会をブランディングにも生かすことは、国際化を推し進めることにもなり、このまちの人たちに青年会議所運動を知ってもらう絶好の機会となります。

仁川JC との姉妹締結

世界でも有数の国際経済都市である仁川及び仁川JCと交流し、国際競争の激しさを知り、異文化に触れることができる。日本人としてのアイデンティティを再認識することができます。

姉妹JC とは

青年会議所に加盟している2つ以上の会員会議所相互間の姉妹(JIC)の信条の則り、経済、文化等に関する交流を行うことによって、会員相互の理解と友情を深め、更に地域社会の産業、文化、教育の発展に対して国際的視野にたった両国間の親善と友好を深めることです。

石像里帰り大作戦とは

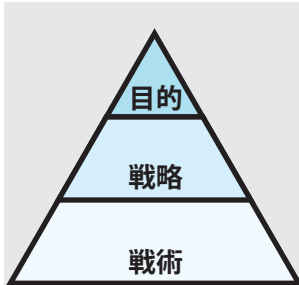
清水の老舗料亭・玉川楼にあった石像を仁川(観光)に返還した出来事。半世紀にわたって客室の庭に安置されていたが今後の日韓友好のためにも、生まれた故郷に返してあげたいという願いから、当時6代目が所属していた旧清水JCが韓国仁川JCと姉妹提携をして毎年、交流事業を行っていたため、旧清水JCに相談したことが発端で里帰りを実現されました。

静岡JCが行う記者会見

2016年度広報委員会ではこれまでにない取り組みとして対外的な事業については記者会見を行いました。



△記者会見風景 (2016)



*目的と目標の違い
 目標：(Target) その目的を達成するために資源を投入する具体的な目的のこと

目的は 100万人都市
 目標は 静岡の国際化

目的：(Object)
 達成すべき使命のこと

未来を照らす独創性 誇りを胸に
 「先進100万人都市 輝く静岡」の創造

戦略：(Strategy)
 目的を達成するために
 資源を分配する「選択」のこと

(対外戦略)
 「このまち」への3つの戦略
 戦略Ⅰ：一人ひとりがこのまちの
 原動力となる運動
 戦略Ⅱ：定住人口を増やす運動
 戦略Ⅲ：交流人口を増やす運動

(対内戦略)
 静岡青年会議所の在り方
 会員：主体的に率先して動く
 熱意溢れる JAYCEE
 組織：このまちを繋ぎ牽引する
 力強い組織

戦術：(Tactic)
 戦略を実行するための
 より具体的なプラン

各アクションプラン

検証の方法と頻度について

検証の頻度と検証方法は、目的、戦略、戦術で異なります。

目的は 10年毎で検証（2024年度）

2025年度からの10年間にわたるこの次のビジョンの策定にあたり検証します。したがって、この2015年度から2024年度における期間は検証しません。

戦略は 5年毎で検証（2020年度、2024年度）

2020年度にこの中長期計画の中間検証として行います。検証方法については、検証を主として行う委員会の設置、理事会での検証等、現時点では考えられますが、検証時のキャビネットの検討事項となります。

戦略は毎年検証

毎年、検証していきます。以下3点の方法を提案します。

・議案鑑文に記載

事業の上程議案と報告議案の鑑文に記載項目を追加します。

・事前調査票による検証

これまでの例会・事業での個別アンケートに追加する形でも構わないので、事業・例会が中長期計画に沿ったものであるかどうかを毎年同じ設問で集計します。事業の内容が年を経るにつれてどう変化しているかの定点観測的な意味を持つ調査をして残しておきます。目的や戦略の検証においても有益な情報となります。

・室による検証

年間を通して、室としてどのように中長期計画に沿った事業をしてきたかを報告文章としてまとめます。

事前調査票について

- ・実施された例会・事業が「先進100万人都市 輝く静岡」の創造（目的）を達成するために、しずおかの国際化（目標）に対して寄与したものでしょうか。
- ・実施事業において同じアンケートを行うことで、定点観測をします。どの事業（とくに継続事業や内容は変われど毎年おこなうまちづくり事業など）の方向性を確認します。

事前調査票

20XX年度 XX月度第一例会 ～事業名～

【1】本事業または例会がFirst Visionのどの基本計画に該当しますか。

- 戦略Ⅰ：一人ひとりがこのまちの原動力となる運動
 戦略Ⅱ：定住人口を増やす運動
 戦略Ⅲ：交流人口を増やす運動
 会員：主体的に率先して動く熱意溢れる JAYCEE
 組織：このまちを繋ぎ牽引する力強い組織

【2】上記で選んだ基本計画について、どのように寄与しますか

[]

【3】本事業・例会がどのように静岡の国際化に寄与しますか。

[]

アンケートにご協力頂き、ありがとうございました。

⇒ロードマップの戦術（アクションプラン）を実行したはずの事業が、First Visionにおける基本計画（「このまち」への3つの戦略）に本当に関係した内容である事を確認するため。

⇒ロードマップの戦術（アクションプラン）を実行したはずの事業が、First Visionにおける基本計画（静岡青年会議所の在り方）に本当に関係した内容である事を確認するため。

⇒事業内容が、First Visionを実現するための手法として位置づけられている「国際化」に関係した内容である事を確認するため。

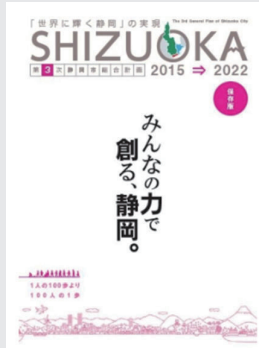
⇒今一度メンバーへの「Road to Million」の目的である「First Vision」の復習の意味を込めて。
 ※目標のおさらい

静岡市の現状と時代の風潮

第3次静岡市総合計画とは

2015年から2020年までの静岡市における行政が目指す街づくりの計画。策定にあたっては、市長をトップとする庁内策定会議を設置し、活発な議論を重ねた。さらに、「Voice of しずおか市民評議会」や、市民アンケートの実施、パブリックコメントなど、様々な方々の参画の下に計画された。そして、基本構想と基本計画は、平成26年市議会11月定例会に議案として上程し、可決され、策定された。

本計画は基本構想、基本計画、実施計画の三段構成となっており、6つの重点プロジェクトを定めている（重点プロジェクトは歴史、文化、中核、健康、防災、共生）



日本は2008年をピークに人口減少社会へと転換しました。静岡市においても人口減少は著しく、同規模の政令指定である浜松市や岡山市と比べても静岡市の人口減少は著しく、今後はこの人口減少がさらに加速することが予想（図1）されています。

人口減少の内訳を見ていくと男女ともに15から19歳での転出が非常に多く（図2）、これは専門学校や大学進学にあたり、多くの若者が県外へと出て行ってしまったためです。県内では1万7000人以上の大学進学者に対して、県内大学への進学者が8000名強しかおらず、多くの若者が転出（図3）してしまっています。この進学

図1 静岡市の年齢区分別将来推計人口

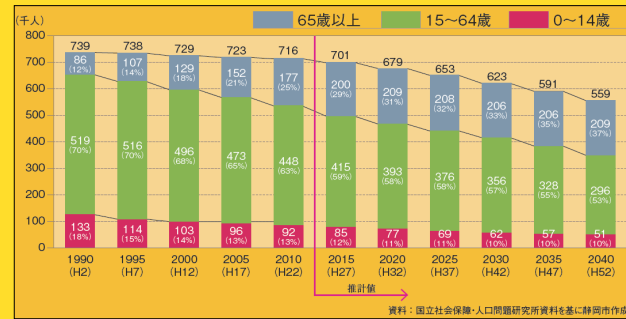
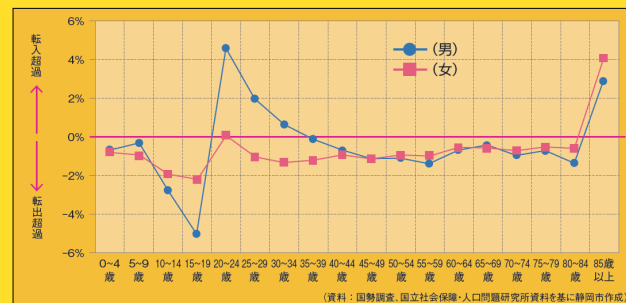


図2 静岡市の男女年齢区分別の純移動率（2010年→2015年）



出典：静岡市「第3次静岡市総合計画」より

2015年ごろの静岡

韮山反射炉（伊豆の国市）の世界遺産登録。「明治日本の産業革命遺産」の構成資産に位置づけられた。登録効果で観光客が増加し、地域振興への期待が高まりました。

2020年東京五輪の伊豆市での自転車競技開催決定、ラグビーワールドカップ英国大会での五郎丸歩選手（ヤマハ発動機）の活躍、サッカーのジュビロ磐田のJ1復帰などスポーツ関係の話も目立ちました。



に関する転出入では、静岡県は全国ワースト1となっています。その後男性は一度は戻ってくるが、特に女性は一度転出すると戻ってこないことが多く、今後は女性の進学率がさらに高まっていくことを考えると、この傾向は一層強まると言えます。一度転出した若者が、どうしたら静岡に戻ってくるのか。そのために静岡はどんなまちとなるべきか具体的に検討して取り組むことが重要です。

人口減少は、今後日本が抱える諸問題の根源的な原因であり、これまでの日本が急速な人口増加、経済発展により、環境汚染、就労等、多くの問題を生み、また、都市もそれに対応するため、たくさんのニュータウンの建設や、多くの公共工事によるインフラの充実などで対応してきました。しかし、現在その流れは逆転し、人口減少によって、過疎化やまちの魅力低下など様々な問題を引き起こしています。

図3 出身高校の所在地別大学入学者数

出身高校の所在地別大学入学者数	大学の所在地別入学者数	転入-転出者数						
		計	順位	うち男	順位	うち女	順位	
全国	617,509	617,509	0	0	0	0		
静岡	17,407	8,113	△ 9,294	47	△ 5,355	47	△ 3,939	47
茨城	14,934	7,368	△ 7,566	46	△ 3,903	45	△ 3,663	46
長野	9,113	3,461	△ 5,652	45	△ 3,058	44	△ 2,594	44
岐阜	9,551	4,577	△ 4,974	44	△ 2,727	43	△ 2,247	42
三重	8,076	3,246	△ 4,830	43	△ 2,626	42	△ 2,204	41
栃木	9,192	4,752	△ 4,440	42	△ 2,449	41	△ 1,991	40
福島	7,653	3,274	△ 4,379	41	△ 1,863	38	△ 2,516	43
新潟	9,561	6,085	△ 3,476	40	△ 2,040	39	△ 1,436	39
千葉	29,207	25,776	△ 3,431	39	△ 699	19	△ 2,732	45
奈良	8,136	5,121	△ 3,015	38	△ 2,295	40	△ 720	23
...
岡山	8,799	8,976	177	10	△ 176	11	353	7
石川	5,459	5,892	433	9	763	9	△ 330	14
滋賀	6,759	7,339	580	8	902	8	△ 322	12
宮城	10,125	11,562	1,437	7	1,127	7	310	8
福岡	22,820	25,688	2,868	6	1,889	5	979	6
愛知	37,935	42,091	4,156	5	1,602	6	2,554	3
神奈川	42,984	48,600	5,616	4	3,948	4	1,668	5
大阪	46,210	52,207	5,997	3	6,080	3	△ 83	10
京都	15,645	33,744	18,099	2	8,558	2	9,541	2
東京	76,342	148,661	72,319	1	39,087	1	33,232	1

出典：（一般）静岡経済研究所「静岡県経済白書」より

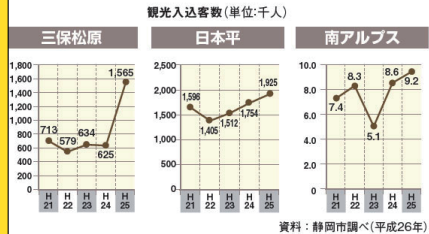
行政の取り組み

MICEとは

Meeting、Incentive、Conference、Exhibitionの4つの頭文字。ビジネスと関わりがあり多数の人の移動を伴う行事のこと。企業などの会議やセミナー、研修旅行、国際会議や総会・学会、展示会・イベントなど。

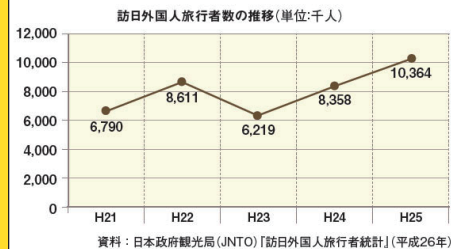
静岡市は、第3次総合計画において、国際化について、4つの実施計画を述べています。それは、海外の人も訪れたいような地域自然の磨きこみ、国際化に対応した人材育成、インバウンドの取り込みに向けての環境整備、MICEなどの開催による交流人口の拡大です。

1 世界レベルの地域資源の活用への期待



- ホビー産業、世界文化遺産三保松原、南アルプスなど世界レベルの地域資源を有しており、多くの観光客が訪れています。
- 家康公に代表される歴史資源や、食、自然、スポーツなど他の地域に勝る魅力があります。
- これらの資源をさらにみがきあげていく必要があります。

3 急がれる来訪者受入環境の整備



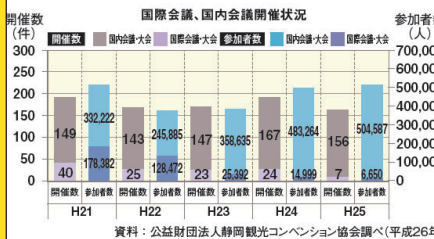
- 東日本大震災以降、訪日外国人旅行者が急激に増加し、平成25年には初めて1,000万人を突破しました。
- 来訪者に対する観光情報や交通手段などの受入態勢が十分に整備されていません。

3 グローバル化の進展などに対応した人材育成



- グローバル化の波は、本市にも確実に押し寄せています。
- 郷土を愛する心の育成や英語によるコミュニケーション能力の向上をはかるとともに、地域社会を支える人材として育成する必要があります。

2 交流人口の拡大による地域活性化への期待



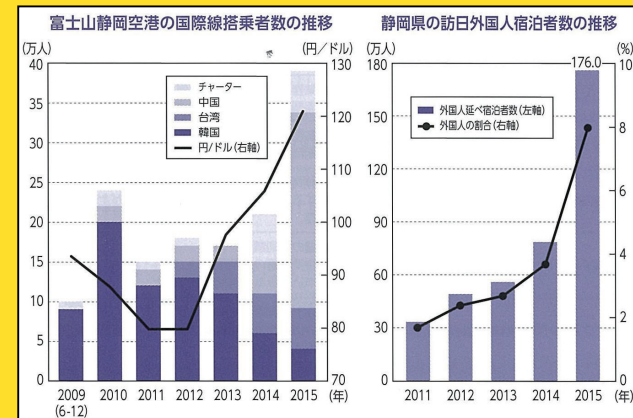
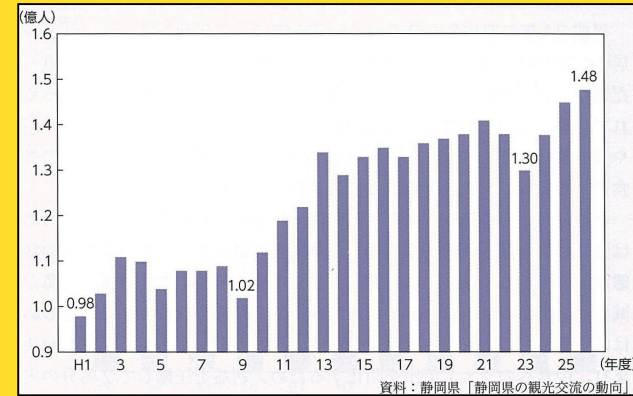
- 地域の人がまちの魅力を再発見するとともに、その魅力を国内外に発信し、来訪意欲を高める必要があります。
- MICE(※1)の誘致は多くの人を呼び込み、地域の活性化につながります。

出典：静岡市「静岡市第3次総合政策」より

インバウンドの取り込みについて

近年、静岡市は観光交流人口を増加させています。更に、富士山静岡空港は2015年に入り国際線搭乗者数が大幅に増加し、それは県内の訪日外国人宿泊者数にも表れています。現在は東京オリンピックに向けてのスポーツツーリズムによるインバウンドの取り込みの黄金期であり、今後ますますの訪日外国人旅行者の増加が見込まれます。そのため静岡市でも積極的にインバウンドを取り入れるための活動が必要です。

図4 静岡県の観光交流客数の推移



スポーツツーリズムとは

スポーツツーリズムとは、スポーツ資源とツーリズムの融合である。スポーツツーリズムは、スポーツを「観る」「する」ための旅行そのものや周辺地域観光に加え、スポーツを「支える」人々との交流、あるいは生涯スポーツの観点からビジネスなどの多目的での旅行者に対し、旅行先の地域でも主体的にスポーツに親しむことのできる環境の整備、そしてMICE推進の要となる国際競技大会の招致・開催、合宿の招致も包含した、複合的でこれまでにない「豊かな旅行スタイルの創造」を目指すものである。(スポーツ・ツーリズム推進連絡会議「スポーツツーリズム推進基本方針」から抜粋)

UNSDGs

2015年9月25日の「持続可能な開発サミット」で、国連加盟国により採択された。一連の持続可能な開発目標 (SDGs)、通称「グローバル・ゴールズ」とは、ミレニアム開発目標 (MDGs)、すなわち、2015年までに世界が達成を約束した8つの貧困対策目標を土台としています。MDGs で見られた大きな前進は、目標やターゲットが実証した共通目標の意義を示しています。

(日本 JC ホームページより)



△ SMILE by WATER

日本 JC、JCI における様々な国際交流・国際貢献の機会

青年会議所は国際組織です。そして日本 JC、JCI には様々な国際交流・貢献の機会があります。

日本には大きく四つのグループ (総務グループ、国家グループ、国際グループ、地域グループ [年度によって変更あり]) から構成されています。その中で国際グループは、日本 JC の国際的な活動を担っています。

■ SMILE by WATER

2015年11月に開催された世界会議金沢大会において、日本 JC は、UN SDGs の目標6「すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続的な管理を確保する」の推進を金沢宣言として発表し、国際協力運動として「JCI JAPAN SMILE by WATER」キャンペーンを展開しています。

2030年までの17のグローバル目標



■ JCI JAPAN 少年少女国連大使

選抜された子ども30人が「JCI JAPAN 少年少女国連大使」としてニューヨークの国連本部を訪れ「世界平和や持続可能な開発」について学び、発表を行います。帰国後も出身地域にて、ニューヨークでの体験や国際協力や平和の大切さについて発信しています。子どもたちが世界や社会に関心を持つきっかけとなる非常に貴重な機会なのです。

■ 国際アカデミー

JCI の認証を受け本年度で29回の歴史を持つ、国際レベルで活躍できる指導者を育成するプログラムです。各 NOM の代表者が、日本人の精神性、日本 JC の活動を理解することはもとより、国内外の参加者との相互理解を深め、人的ネットワークを構築することで、国際レベルで活躍できるリーダーへと成長する国際研修です。本アカデミー卒業生の結束は一生の繋がりとなるだけでなく、本研修で学ぶリーダーとしての本質、共に学んだ仲間との友情は一生の宝となります。

■ ASPAC (エリア会議), World congress (世界会議)

ASPAC はアジア太平洋地区の会員が、世界会議は世界の会員が集う大規模な国際会議です。グローバル社会に生きる私たちにとって、今日まで培った精神をさらに成長・発展させていく民間外交の最高の機会です。個と個の交流、世界と地域の交流を通じての有益な情報交換、相互文化理解ができる国際会議は、JC ならではの大変貴重なものです。



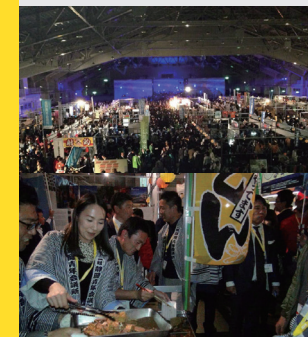
△ 国連少年少女募集チラシ



△ 国際アカデミー

NOM とは

National Organization Member の頭文字をとったもので、国家青年会議所のこと。日本 JC も NOM のひとつ。



△ 世界会議ジャパンナイト



国際アカデミーを静岡に!!



国際アカデミーとは

日本 JCI が、毎年 JCI 加盟の 110 の国と地域から、次代を担うニューリーダー（会頭候補者）を日本に集めて行く、未来のグローバルな指導者を育成するためのセミナーを行う機会です。

このセミナーでは、グローバルな視野を育て、長く続く友情を育み、世界に広がる JCI のネットワークを促進します。参加者（デリゲイツ）に世界中に平和をもたらすよう活動する基盤を創る機会を与え、卒業生はグローバルネットワークと呼ばれる。国内外から集まった 150 名を超える参加者が、寝食を共にし、セミナー、座学、ホームステイ、地域市民との交流を通じて、世界で活躍するリーダーとは何かを学びます。また、参加者（特に海外デリゲイツ）には、日本 JCI が発信している「OMOIYARI の精神」や「相互理解」をプログラムに組み込み、日本文化や伝統の体験も行われます。

国際アカデミーの目的

JCI の目的

NOM 会頭予定者、NOM 代表者へのセミナーを通じて、NOM 間交流や人的ネットワークの構築します。

日本 JCI の目的

JCI への貢献。JCI における日本 JCI への存在感、リーダーシップ発揮の場。日本 JCI の考え方や運動、日本人文化についての情報発信をする機会を得ます。また、国際的な人的ネットワークを構築することで、国際交流や国際化へ貢献します。

デリゲイツ（参加者）の目的

海外からの参加者との交流を通じて、自らの意見や運動を世界に発信する機会を得ます。また、人的ネットワークを構築し、NOM、LOM の発展に寄与します。

開催地 LOM の目的

地域に対して JCI 運動を発信し、国際交流の機会を創出します。また、地域の魅力を世界の人々に発信していきます。日本 JCI や諸団体のネットワークを更に強化することができます。

国際アカデミーなんでも Q&A

Q. 英語が話せなくても大丈夫ですか？

A. 勿論英語が話せたほうが、よりコミュニケーションをとれますが、言語を超えて相手と通じ合える体験ができるのが、この国アカの醍醐味です。

Q. 国賓級の人も参加するみたいですが？

A. 2010 年は某国の「王子」という方が来られたそうです。また、何千人と社員がいる会社の社長であったりもしますが、外国からの参加者が全員セレブとは限りません。弁護士や社労士のような士業の方など様々です。

Q. 国アカって誰が主催なの？

A. JCI の公認プログラムで、日本 JCI が主催しています。開催地は、前年の日本 JCI の全国大会期間中に決定します。開催には立候補をし、企画書を提出して誘致をします。

Q. 国アカを誘致するには何をすればいいの？

A. 主催の日本 JCI に対して「静岡で国アカをやり



たい!!」とアピールすることが大切です。国際アカデミーを設営する委員会への出向者輩出やデリゲイツ輩出も非常に重要です。

Q. 開催期間中は静岡 JCI は何をするの？

A. 日本 JCI の担当委員会と連携して、特に地元に関わるプログラムの運営をします。例えば、ホームステイの受け入れファミリーや通訳ボランティアの手配、会場の設営や、移動の段取りなどもあります。また、地元の人たちと連携したプログラムの設営などもあります。

Q. グローバルネットワークとは？

A. 国際アカデミーのすべてのプログラムを終了し、卒業した人の総称です。世界平和に貢献することを期待されたリーダーたちです。また、毎年の国際アカデミーや世界大会の開催期間中は同窓会など頻りに集まりがあり、卒業後もより一層絆が深まります。

Q. 国際アカデミーは世界中で行われているの？

A. JCI 公認のプログラムは日本で開催される国際アカデミーのみです。世界中でもこれを真似て同じようなプログラムを JCI 公認で行いたいとの動きはあります。世界の JCI 会頭候補者に日本の精神性を理解してもらう大切な機会なので、日本 JCI としてもこの国際アカデミーは大切なプログラムと位置付けています。

Q. 国際アカデミーを静岡で開催したらどんなことがあるの？

A. 国際アカデミーのプログラムには、学校訪問やホームステイなどまちの人たちに関わってもらえるプログラムがたくさんあります。これらを通して、このまちの人たちの国際意識を刺激すること、JCI の運動・活動を知ってもらう最高の機会となります。



静岡の「国際化」に あなたは何ができますか？